県立鳥取商業高等学校大体育館トイレ洋式化改修工事

設　計　図

図面リスト

図面 No	図面名称	SCALE	備考
M－01	タイトル　図面リスト		
M－02	機械設備工事特記仕様書（1）		
M－03	機械設備工事特記仕様書（2）		
M－04	付近見取図、配置図、工事概要	S＝1／1000	
M－05	1階　平面図	S＝1／200	
M－06	機械設備　　便所　配管図　（撤去図・改修図）	S＝1／50	
M－07	建築工事　　便所　平面図　（改修図）	S＝1／50	
M－08	建築工事　　便所　平面図　（撤去図）	S＝1／50	
E－01	電気設備　　1階　配線図、特記仕様書、分電盤　結線図　（改修図）	S＝1／100	

鳥取県
令和8年度
J2600246
東部建築住宅事務所

県立鳥取商業高等学校大体育館トイレ洋式化改修工事

タイトル、図面リスト

株式会社　樟設備設計事務所
〒680－0052　鳥取市鍛冶町14
二級建築士登録番号　第2810号　谷本　正敏

CHECKED. BY		DRAWING. BY		PROJECT. NO	DATE	SCALE	DRAWING. NO
谷本	吉田		西川	25－17	2026. 02		M －01

機 械 設 備 工 事 特 記 仕 様 書

Ⅰ. 工 事 概 要

1 工事場所　鳥取市湖山北２丁目

2 建物概要

番号	建物名称	構造	階数	建築基準法による延べ面積(㎡)	消防法施行令別表第一の区分	備考
1	体育館	S	1	1,699.0	（　　）項	既存建物
2					（　　）項	
3					（　　）項	
4					（　　）項	
5					（　　）項	

3 工事種目　（◉ 印の付いたものが対象工事種目）

工事種目＼番号	1	2	3	4	5	屋外	備考
● 空気調和設備							
● 冷暖房設備							
● 換気設備							
● 排煙設備							
● 自動制御設備							
◉ 衛生器具設備	○						
◉ 給水設備	○						
◉ 排水設備	○						
● 給湯設備							
● ガス設備							
● 浄化槽設備							
● 消火設備							
● さく井設備							
● 電気設備工事							
● 建築工事							

4 設備概要　（本工事における工事種目ごとの概要を示すもので、仕様を規定するものではない。）

◉ 印の付いたものを適用する。

	項目		設備概要
空気調和・冷暖房設備	● 空気調和設備		● 単一ダクト方式　● 各階ユニット方式　● ダクト併用ファンコイルユニット方式
	● 冷暖房設備		● ファンコイルユニット方式　● パッケージ方式
	● 暖房設備		● 温水暖房　● 蒸気暖房　● 温風暖房（ ● 局所式　● 中央式 ）　● 床暖房
	● 熱源		● 電気　● 灯油　● Ａ重油　● ガス　● バイオマス
	● 主要熱源機器		● 鋼製ボイラー　● 鋳鉄製ボイラー　● 真空式温水発生機　● 無圧式温水発生器 ● チリングユニット　● スクリュー冷凍機　● 遠心冷凍機　● 吸収式冷凍機 ● 直だき吸収式冷温水機　● 小形吸収式冷温水機ユニット ● バイオマスボイラー　● ルームエアコン ● ヒートポンプパッケージエアコン（ マルチタイプ　● 有　● 無 ） ● 温風暖房機　● ＦＦ暖房機　● その他（　　）
換気設備			● 第一種　● 第二種　● 第三種
排煙設備			● 機械排煙（ 適用法規 ● 建基法　● 消防法 ）
自動制御設備			● 電気式　● 電子式　● デジタル式
衛生設備	◉ 給水設備	給水方式	● 水道直結方式　◉ 高置水槽方式　● ポンプ直送方式　● 増圧給水方式
		水源	◉ 水道水　● 井水
	◉ 排水設備	排水方式	◉ 自然流下　● ポンプ排水（ ● 汚水　● 雑排水　● 雨水 ）
		放流先 汚水	◉ 公共下水道　● 浄化槽
		放流先 雑排水	◉ 公共下水道　● 浄化槽
		放流先 雨水	● 公共下水道　● 側溝　● 河川
		浄化槽 処理方式	● 小規模合併　● 合併
		浄化槽 処理水放流先	● 排水路　● 側溝　● 河川
	● 給湯設備		● 局所式（ ● ガス　● 油　● 電気 ）　● 中央式（ ● 油　● ガス　● 電気 ）
	● 消火設備		● 屋内消火栓　● 屋外消火栓　● 連結送水管　● 連結散水 ● スプリンクラー　● 泡消火　● 粉末消火装置 ● 不活性ガス消火（ ● 窒素　● 窒素系　●　　）　● ハロゲン化物消火
	● ガス設備		● 都市ガス（　　MJ/Nm3 ）　● 液化石油ガス

令和8年4月改定版

Ⅱ. 特 記 仕 様

1 一 般 事 項

（1）現場説明書、質問回答書、特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の標準仕様書等のうち、
◉ 印の付いたものによる。
◉ 公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）（令和７年版）（以下「標準仕様書」という。）
◉ 公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）（令和７年版）（以下「改修標準仕様書」という。）
◉ 公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）（令和７年版）（以下「標準図」という。）

（2）国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「機械設備工事監理指針（令和７年版）」（以下「監理指針」という。）を適用する。

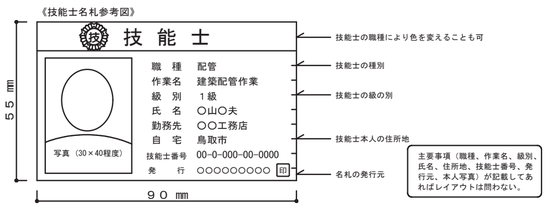
（3）電気設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、電気設備工事及び建築工事はそれぞれの標準仕様書等及び監理指針を適用する。

2 特 記 事 項

（1）項目は番号に ○ 印の付いたものを適用する。

（2）特記事項のうち選択する事項は ◉ 印の付いたものを適用する。
◉ 印の付かない場合は、※ 印の付いたものを適用する。◉ 印と ㊛ 印の付いた場合は両方を適用する。

（3）一般共通事項のうち （1、2、3、11、12、14、15、16、17、18、36） 項は、● 建 築 ● 電気設備 工事特記仕様書による。

	項目	特記事項
一般共通事項	① 官公署その他への手続	工事の施工に伴い必要な官公署その他への手続き、検査に必要な資機材、労務等を提供する。
	② 電気保安技術者	事業用電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、電気主任技術者の業務を補佐する監督職員の指示に従い、当該現場における電気工作物の保安業務を行うものとする。 なお、電気保安技術者の資格は標準仕様書第１編第１章第３節１．３．２によるものとし、一般用電気工作物に係る工事についても、事業用電気工作物の場合と同様の業務を行うものとする。（施設契約電力：　　kW）
	3 工事安全計画書等	建設工事公衆災害防止対策要綱及び建築工事安全施工技術指針を参考に工事安全計画書を作成し監督職員に提出する。
	④ 発生材の分析及び処理	引渡しを要するもの ※ 無し　● 有り（　　） 引渡しを要するもの以外は、構外搬出適切処理とする。 特別管理産業廃棄物 ※ 無し　● 有り（ ● 石綿含有廃棄物 ● ＰＣＢ使用機器 ●　　） ● 本工事において該当の有無を調査する アスベスト含有設備資機材（ガスケット、パッキン、たわみ継手等の石綿含有廃棄物）は関係法令に従い適切に処理を行う。 ＰＣＢ使用機器は関係法令等に従い適切に処理する。 搬去予定機器の微量ＰＣＢ分析　※ 無し　● 有り 再生資源化を図るもの ※ 無し　● 有り（ ● コンクリート塊　● アスファルトコンクリート塊　●　　）
	⑤ 機材等	本工事に使用する機材等は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。
	⑥ 機材の品質・性能証明	使用する機材等が、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料を、監督職員に提出する。 ただし、ＪＩＳ、ＪＡＳ又は「給水装置の構造及び材質の基準に関する省令」に適合し、認証機関のマークのある機材を使用する場合及びあらかじめ監督職員の承諾を受けた場合は、証明となる資料の提出を省略することができる。 ただし、標準仕様書に規定される製作図、試験成績等は除く。
	⑦ 機材の承諾図	機械設備工事機材承諾図様式集（令和７年版）を参考とするほか、監督職員の指示による。
	⑧ 図形等の表示	機器類は、図示する形状、配管等などの取出し位置及び製造品番により、特定製造者の製品を指示、限定しない。
	⑨ 機器の能力・容量等	機器類の能力、容量等は、原則として図面に記載されている値以上とする。 電動機出力、燃料消費量等は、原則として図面に記載されている値以下とする。
	⑩ 技能士の適用	下記により適用する技能士は、適用する工事作業中、１名以上の者が自ら作業をするとともに他の技能者に対して施工品質の向上を図るための作業指導を行う。また、そのものが技能士であることが分かる名札（下図参考）を常時着用する。 ◉ 配管　（◉ １級　● ２級 ）　◉ 熱絶縁施工　（ ● １級　◉ ２級 ） ● 冷凍空気調和機器施工　（ ● １級　● ２級 ）　● 建築板金　（ ● １級　● ２級 ） 《技能士名札参考図》 
	⑪ 施工図等	提出した施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は発注者に移譲するものとする。
	⑫ 完成写真等	国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「工事写真撮影ガイドブック機械設備工事編　令和５年版」によるほか、監督職員の指示による。下記のものを提出する。

区分	分類・規格	撮影箇所	部数	電子データの提出
工事写真	カラー	各工種工程毎	※ １部　● 部	※ 要　● 不要
完成写真	カラー	監督職員の指示による	※ ２部　● 部	※ 要　● 不要

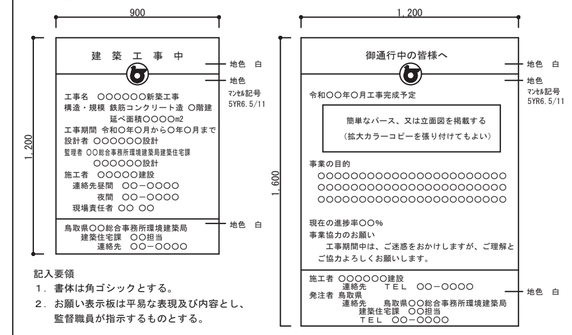
	項目	特記事項
一般共通事項	⑬ 完成図等	次の図書を工事の完成引渡し時に監督職員に提出する。

区分	名称	部数
※ 完成図原図	完成図　● 原紙　※ ＣＡＤデータ　※ ＰＤＦデータ 施工図　● 原紙　※ ＣＡＤデータ　※ ＰＤＦデータ	※ ２部 ● 部
※ 完成図　２つ折製本	※ 完成図　※ 完成図（縮小版） ● 施工図　● 施工図（縮小版）	※ ２部 ● 部
※ 完成図書 ※ 市販ファイル（Ａ４版） ● 黒表紙製本（Ａ４版）	※ 完成図（縮小版）　※ 主要機器図 ※ 試験成績書　※ 保証書（写し） ※ 官公署の届出書類（写し）	※ ２部 ● 部
※ 保守用説明書（Ａ４版ファイル）	※ 保守に関する指導案内書 ※ 主要機器一覧表 ※ 機器取扱説明書	※ ２部 ● 部
※ 保証書（原本）		１部
※ 官公署の届出書類（原本）		１部

※ 原図ケース・製本図面の背表紙に「施設コード・部局名称」ラベルを貼り付ける。

	項目	特記事項
一般共通事項	⑭ 他工事との取合	

他工事との取り合い		建築	電気設備	機械設備
● コンクリート壁、床、梁貫通部	スリーブ・箱入	●	●	※
	補強	※	●	●
● 鉄骨造の開口及び補強		※	●	●
● 照明器具・幹線等の吊りボルト用インサート（くぎ処理共）		●	※	●
● 軽量鉄骨壁のボックス取付用下地		●	※	●
● 埋込分電盤・端子盤・プルボックスの仮枠及び埋込部分の補強	仮枠	●	※	●
	補強	※	●	●
● ＯＡフロア・フリーアクセスフロアの切込み及び補強		※	●	●
● 埋込形機器取付用の天井・壁の切込加工及び下地の補強	切り込み	●	●	※
	補強	※	●	●
● 自動開閉装置を取付ける防火戸の切込み、補強及びドアクローザ、フロアヒンジ		※	●	●
● 電気室、自家発電室などの基礎及びピット（蓋を含む）		※	●	●
● 天井点検口		※	●	●
● 機器類のコンクリート基礎	屋内・屋外設置	●	●	※
	屋上設置	※	●	●
● 機器付属の制御盤及び操作盤から機器までの配線		●	●	※
● 機器用コントロールスイッチ（空調機、給湯器等）の取付及び配線		●	●	※

	項目	特記事項
一般共通事項	⑮ 工事用水・電力・その他	本工事に必要な工事用電力、水及び諸手続きなどの費用はすべて受注者の負担とする。
	⑯ 表示板	設ける。（寸法等は下図による。建築工事、電気設備工事等と一括して表示する。） ※ 工事表示板　● お願い表示板  記入要領 １．書体は角ゴシックとする。 ２．お願い表示板は平易な表現及び内容とし、監督職員が指示するものとする。
	17 足場	「手すり先行工法等に関するガイドライン」に基づく足場の設置にあたっては、同ガイドラインの別紙１「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における２の(2)手すり据置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。
	⑱ 工事用仮設物	構内に作ることが　※ 出来る　● 出来ない
	19 土工事	（ア）埋め戻し土　● 根切土のなかの良質土（ ● コンクリート管以外の管の周囲は山砂の類 ） ● 山砂の類（　　） ● 真砂土　（　　） （イ）建設発生土処分　● 構外に搬出　● 構内指定場所に敷ならし　● 構内指定場所に堆積
	⑳ 保温工事	配管、ダクト類の保温種別等は、下記若しくは図示による。 ● 冷温水管　（ ● ロックウール　● グラスウール　● ポリスチレンフォーム　●　　） ● 蒸気管　（ ● ロックウール　● グラスウール　●　　） ◉ 給水管　（ ● ロックウール　● グラスウール　◉ ポリスチレンフォーム ● 保温チューブ（厚さ＠　t）　●　　） ● 排水管　（ ● ロックウール　● グラスウール　● ポリスチレンフォーム　●　　） ● 空調用ドレン管　（ ● ロックウール　● グラスウール　● 保温チューブ（厚さ＠　t）　） ● 冷媒管　（ ● 冷媒用断熱被覆銅管（JCDA-0009）　●　　） ● 給湯管　（ ● ロックウール　● グラスウール　● 保温チューブ（厚さ＠　t）　） ● 消火管　（ ● ロックウール　● グラスウール　● ポリスチレンフォーム　●　　） ● ダクト　（ ● ロックウール　● グラスウール　●　　） ● 燃焼熱源等機械室内の配管（ ● ロックウール　● グラスウール ） ● 全熱交換機の機器外気側ダクト（ ● 給気側　● 排気側 ）は保温（グラスウール２５mm厚）する。 ● 冷媒管の保温外装　屋内（ ● 樹脂製化粧ケース　● 合成樹脂製シート　● 屋外（ ● 樹脂製化粧ケース　● ＳＵＳ鋼板　●

鳥取県 令和8年度 J2600246 東部建築住宅事務所

県立鳥取商業高等学校大体育館トイレ洋式化改修工事	株式会社 樟設備設計事務所 〒680－0052 鳥取市鍛冶町14 二級建築士登録番号 第2810号 谷本 正敏	CHECKED. BY 谷本	吉田	DRAWING. BY 西川	PROJECT. NO	DATE	SCALE	DRAWING. NO
機械設備工事特記仕様書（１）					26－03	2026. 08		M －02

一般共通事項

21	地中埋設鋼管類の防食処置	※ 標準仕様書（ ● ペトロラタム系　● ブチルゴム系　● 熱収縮チューブ及びシート）による。 ● 図示による
22	絶縁継手	● 標準図（施工３）　● (1)絶縁フランジ　● (2)絶縁シート　● (3)絶縁スリーブ　● (4)絶縁ユニオン
23	防振継手	※ 合成ゴム製（球形）　● ポリテトラフルオロエチレン製　● ベローズ形（ステンレス製）
24	伸縮管継手	※ ベローズ形　● スリーブ形
25	塗装	塗装は標準仕様書第２編３．２及び図示による。 残りねじ部及びパイプレンチのチャック跡部の鉄面は、さび止めペイント２回塗りを行う。 上記によらず　●塗装する部分・箇所（　　）　● 塗装しない部分・箇所（　　）
26	ステンレス鋼管の接合方法	呼び径６０Ｓｕ以下の継手は、ＳＡＳ３２２を満足する（ ※ メカニカル型　●　　）とする。
27	溶接配管の検査	● ガス配管　● 冷温水配管　● 冷却水配管 非破壊検査の適用（ ※　浸透探傷検査又は磁粉探傷検査　● 放射線透過検査　● 実施しない　） 抜　取　率（ ※　標準仕様書による　●　％　）
28	埋設表示	● 地中埋設標を標準仕様書によるほか図示する箇所に設ける。 ● 埋設表示用テープを埋設する。（ ● ガス管　● 屋外給水管　●　　）
29	支持金物・固定金具	ポンプ、屋外設置機器及びピット内に使用するアンカーボルト、ナットはステンレス（ＳＵＳ３０４）製とする。屋外及びピット内の配管、ダクトに使用する支持金物等はステンレス（ＳＵＳ３０４）製または溶融亜鉛めっき仕上げとする。
30	総合試運転調整	下記事項の総合調整を行い、測定結果を監督職員に提出する。 ● 温度　● 湿度　● 風量　● 騒音　● 水量　● 浄化槽放流水質 ● 風速　● じんあい　● 飲料水水質（ ● 一般飲料水適否検査　● 残留塩素　　） ● その他水質等（ ● 雑用水　● 空調用流体　●　　）
31	アスベスト含有建材の処理	改修標準仕様書　第４章 撤去及び公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）９章 環境配慮改修工事 １節 石綿含有建材の除去工事による。 処理を行うアスベスト含有建材の仕様等

建材の内容・箇所	仕様等	処理を行う範囲

※ 県有施設の石綿除去等に係る施工業者の登録制度による登録を受けている業者を活用するものとする。
※ 官公署その他への手続きは、同仕様書ほか、労働安全衛生法、大気汚染防止法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、石綿障害予防規則、鳥取県石綿健康被害防止条例等の関係法令に基づいて行う。
● 施工調査（分析によるアスベスト含有建材の調査）を行う。
分析方法はＪＩＳ Ａ １４８１「建材製品中のアスベスト含有率測定方法」による。
分析調査箇所は下記によるほか図示による。
● 保温材（ ● 配管 ● 機器）（　検体）　● 設備用シール材（ ● パッキン ● ガスケット）（　検体）
● 断熱材（　検体）　● 建築部材（ ● 天井材 ● 床材 ● 外壁材 ●　　）（　検体）　●
● アスベスト粉じん濃度測定を行う。
（測定時期：　　測定場所：　　測定点：　　）
● 洗浄設備（洗眼、うがいの設備）及び更衣設備等を設ける。
● 作業場の養生として、処理場所をプラスティックシート等で囲い、外部への粉じん飛散を防止する。
対象箇所（　　）

32	補修など	工事の施工に伴い既成部分を汚染又は損傷した場合は、既成にならい補修する。
33	はつり	既存のコンクリート床、壁などの配管貫通部の穴開けは、原則としてダイヤモンドカッターによる。
34	はつり工事における非破壊検査	探査方法　※電磁誘導式または電磁波レーダー法　● 放射線透過検査
35	室内空気中の化学物質の濃度測定	実施する。
36	火災保険等	工事目的物及び工事材料等工事施工途中の事故に伴う損害を補てんするため火災保険等に加入する。 （保険の加入期限は、工事完成引渡しまで[概ね工期＋21日]とする。）
37	グリーン購入	グリーン購入は次のもとのとする。 ● 空調用機器（　　）　● 衛生器具　（　　） ● 断熱材　（　　）　● 配管材（ ● 再生硬質ポリ塩化ビニル管　）　● その他（　　）
38	鳥取県公共工事環境配慮指針	対象工事
39	建築物省エネ法	対象工事
40	耐震施工	設備機器の固定は、次に示す設計用地震力に耐える方法とする。ただし、重量１ｋＮ以下の一般機器について、製造者の指定する固定方法を採用する場合は、この限りではない。 （１）機器の据付け及び取付け 設計用水平地震力は、機器の重量（自由表面を有する水槽その他の貯槽にあっては有効質量）［ｋＮ］に、地域係数と次に示す設計用標準水平震度を乗じたものとする。

設計用標準水平震度

設置場所	機器種別	● 特定の施設 ● 重要機器	● 特定の施設 ● 一般機器	● 一般の施設 ● 重要機器	● 一般の施設 ● 一般機器
上　層　階 屋上、塔屋	機　　器	２．０	１．５	１．５	１．０
	防振設置機器	２．０	２．０	２．０	１．５
	水　槽　類	２．０	１．５	１．５	１．０
中　間　階	機　　器	１．５	１．０	１．０	０．６
	防振設置機器	１．５	１．５	１．５	１．０
	水　槽　類	１．５	１．０	１．０	０．６
地階・１階	機　　器	１．０	０．６	０．６	０．４
	防振設置機器	１．０	１．０	１．０	０．６
	水　槽　類	１．５	１．０	１．０	０．６

上層階の定義　２～６階建：最上階、７～９階建：上層２階、10～12階建：上層３階、13階建以上：上層４階
中間階の定義　地階、１階を除く各階で上層階に該当しないもの
重要機器　● 換気機器　● 空調機器　● 熱源機器　● 防災機器　● 監視制御設備　● 危険物貯蔵装置
● 火を使用する設備　● 避難経路上に設置する機器　● 水槽類（燃料小出槽を含む）
● （　　）
（２）設計用鉛直地震力は設計用水平地震力の１／２とし、水平地震力と同時に働くものとする。
（３）設備機器の耐震支持及びアンカーボルトの許容耐力と選定については、「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」（（一財）日本建築センター）を参考にする。

41	アンカーボルトの引張試験	設備機器のアンカーボルトについて、施工後に引張試験を行う。試験方法等は（　※ 下記　● 図示 ）による。 試験方法　● 引張試験機による引張試験　● 確認強度　● 対象機器ごとのアンカーボルト１本に作用する短期の引抜き力以上　● 試験箇所数　● １施工単位に対し１本以上　● 全数　● 対象機器　● 重要機器　● 空調機器　● 熱源機器　● ポンプ　● 換気設備　● 制御盤類　●

1 空気調和設備

1	設計用温湿度条件	

	外気条件				室内（ 調整目標値 ）							
					一般				（　）			
	温度		湿度		温度		湿度		温度		湿度	
	（ DB ）		（ RH ）		（ DB ）		（ RH ）		（ DB ）		（ RH ）	
夏季	３６．０	℃	５０．２	%	２８．０	℃	成行き	%		℃		%
冬季	－０．４	℃	７８．５	%	１９．０	℃	成行き	%		℃		%

2	冷却水管	※ ＳＧＰ（白）　● ＳＧＰ－ＶＡ　● ＳＧＰ－ＰＡ
3	冷水・温水・冷温水管	※ ＳＧＰ（白）　● ＳＧＰ－ＨＶＡ　● ステンレス鋼管（SUS304） ● 架橋ポリエチレン管（ファンコイル機器接続部に限る）　● ポリブテン管（ファンコイル機器接続部に限る）
4	膨張・空気抜・補給水管	※ ＳＧＰ（白）　● ステンレス鋼管（SUS304）
5	蒸気給気管	※ ＳＧＰ（黒）
6	蒸気還水管	※ ＳＴＰＧ３７０－Ｓｃｈ４０（黒）　● ステンレス鋼管（SUS304）
7	油・油用通気管	一般配管　※ ＳＧＰ（黒）　地中配管　※ 合成樹脂被覆鋼管
8	冷媒管	※ 冷媒用断熱材被覆鋼管
9	空調用給水管	● ステンレス鋼管 ● ＳＧＰ－ＶＡ　●
10	空調用ドレン管	※ ＶＰ　● カラーＶＰ（ ●屋外露出部　●　　）　● ＳＧＰ（白）
11	弁類	※ ５Ｋ　● １０Ｋ
12	ファンコイルユニット	※ 流量調整弁　● 定流量弁（ ● ダイヤフラム式流量可変式　● カートリッジオリフィス形 ）を取付ける。
13	ダンパー	（ア）防煙ダンパー　※ 遠隔復帰式　● 電気式　（動作用電圧、電流はＤＣ２４Ｖ、０．７Ａ以下とする。） （イ）ピストンダンパー　※ 遠隔復帰式　●
14	ダクト	※ 低圧ダクト　● 高圧１ダクト　● 高圧２ダクト ● 長方形ダクト　● コーナーボルト工法（ ● 共板工法　● スライドオンフランジ工法 ） （長辺１５００㎜を超えるものはアングルフランジ工法とする。） ● アングルフランジ工法 ● 防火区画を貫通するダクトは、その貫通する部分の前後１５０㎜を１．６㎜厚鋼板製とする。
15	吹出口・吸込口	ボックス　※ 亜鉛鉄板製　● グラスウール製
16	チャンバー等	シーリングディフューザーの接続は、標準図（施工５０）を参考とする。 接続するダクトの施工が困難な場所ではフレキシブルダクトを使用してもよい。 線状吹出口には、長さ＋１００×　３００　×　３００Ｈの接続チャンバーを設ける。 外壁に面するガラリにチャンバー等を設ける場合には、雨水等を自然に排出できるよう勾配をつける。
17	消音内貼り	吹出口接続チャンバー及び図示したダクト並びにチャンバー類に内貼りする。 内貼りチャンバー類の寸法は、外法寸法とする。 吹出口接続チャンバー以外の内貼りしたチャンバーには点検口（原則４００×６００）を取付ける。
18	瞬間流量計及び流量測定口	形式はピトー管式（コック付）とする。　● 着脱式　● 固定式 下記の箇所、若しくは図示により取付ける。 ● 冷凍機類の冷水出口　● 瞬間流量計　● 測定用タッピング ● 冷凍機類の冷却水出口　● 瞬間流量計　● 測定用タッピング ● ボイラー又は熱交換器の温水出口　● 瞬間流量計　● 測定用タッピング ● 冷温水ヘッダーの各送り管　● 瞬間流量計　● 測定用タッピング ● ユニット形空気調和機の冷温水入口　● 瞬間流量計　● 測定用タッピング
19	定風量・変風量ユニット	● メカニカル形　● 風速センサー形
20	温度計	機器付属以外の温度計　※ 工業用バイメタル式　● ガード付Ｌ形温度計
21	冷温水管の空気抜き	空気溜りを生ずると思われる配管箇所には、必要に応じて操作の容易な位置に空気抜き弁装置を設ける。 ※ 手動　● 自動 自動空気抜き弁装置は標準図による。（施工３９（ｇ）） 機械室の手動式空気抜き配管の保温は分岐から２ｍの範囲とする。
22	空調機用トラップ	トラップ形式はフロートボール式（床置型）　※ ＦＲＰ製保温型　● ＦＲＰ製　● ＳＵＳ製
23	鋼板製煙道	材質及び厚さ　● ＳＳ４００（ ※ ３．２ｍｍ　● ４．５ｍｍ ）　● ＳＵＳ（ ※ １．５ｍｍ　● ２．０ｍｍ） 煤煙濃度計　● 取付ける　● 取付けない　● 取付座を付ける 煤じん量測定口（８０φ×２）　※ 取付ける　● 取付けない
24	オイルサービスタンク	油面計はゲージ式（側圧計）とする。
25	地下オイルタンク	据付け方法　● 標準図（施工３３）（二重殻タンク・タンク室無し）　● 標準図（施工３４）（タンク室有り） タンクの保護被覆　※ 強化プラスチック　● エポキシ樹脂　● アスファルト 基礎杭　※ 不要　● 要（ ※ 別途工事　● 本工事 ） 土留め工事　● 要　● 不要 タンクローリー用アース端子を設ける。
26	油面制御装置	油面制御装置の機能　● 給油ポンプの起動停止　● 満油警報　● 減油警報　●
27	フィルター等付属品	● 機器表特記による。 ● 空気調和機のフィルターは、ロールの場合は１本、ユニットの場合は１セットを付属品として納入する。
28	パッケージ空調機の能力表示	インバーター機の表示された能力は、型番で選定する。
29	防振吊り及び支持金物	標準仕様書によるほか、中央機械室の冷却水管、冷温水管等の吊り及び支持は防振吊り金物又は防振支持金物で行う。
30	機器の配線・遮断機仕様等	図示する配線、遮断機の仕様（サイズ、容量等）は参考とし、受注者が採用した機器の製造者仕様に適合させる。 採用機器により仕様や改修範囲に変更が生じた場合は、原則として受注者の負担で施工する。

2 冷暖房設備

3 換気設備

4 排煙設備

1	ダクト	※ 亜鉛鉄板製　● 鋼板製（厚1.6mm）
2	排煙口	形状　● パネル形　● スリット形　● ダンパー形 取付け　● 天井取付　● 壁取付
3	排煙口開放及び復帰方式	電気式（遠隔操作　※ 不要　● 要 ）
4	排煙風量測定	建築設備定期検査業務基準書2023年版（（一財）日本建築設備・昇降機センター）の検査方法に準ずる。

5 自動制御設備

1	中央監視制御盤装置	● 有り（構成機能は、図示による）　● 無し
2	電源装置	● 要（ ● 本工事　● 別途工事 ）　● 不要
3	温度調節器等	取付高さ　※ １３００mm　●　　mm
4	計装工事の配線	● 屋外、屋内露出の配線は、図面に表記のない限り金属管配線とする。 ● 天井隠ぺいの配線は、図面に表記のない限りケーブル配線とする。

6 衛生器具設備

1	衛生器具の参考型番	型番変更等により参考型番が変更又は廃止されている場合、参考型番の同等品とする。
2	小便器用節水装置	※ 小便器一体型　● 小便器分離型 ● 洗浄水量４リットル／回以下 ※ 個別感知方式　（ ● ＡＣ電源　● 自己発電　● 乾電池 ）　● 手動式
3	自動水栓	電源供給方式　● ＡＣ電源　● 自己発電　● 乾電池
4	大便器洗浄弁	操作方式　● 電気開閉式　（ ● センサー式　● タッチスイッチ式 ）　● 手動式
5	温水洗浄便座	洗浄用水加温方式　● 瞬間式　● 貯湯式
6	衛生器具の取付高さ	※ 標準図（施工６５）を参考に現場で調整、決定する　●
7	器具と排水管接続	※ 標準図（施工６６）による　●

7 給水設備

1	量水器	● 親メーター　※ 借用　● 買取　（ ※ 直読　● 遠隔表示 ） ● 子メーター　※ 買取　● 借用　（ ※ 直読　● 遠隔表示 ）
2	配管材料	（ア）一般配管　◉ ＳＧＰ－ＶＢ　● ＳＧＰ－ＰＢ　● ＳＵＳ３０４　● ＳＵＳ３１６ ● ＨＩＶＰ　● 架橋ポリエチレン管 （イ）土間下配管　● ＳＧＰ－ＶＤ　● ＳＧＰ－ＰＤ　● ＨＩＶＰ　● ＳＵＳ３０４　● ＳＵＳ３１６ （ウ）地中配管　● ＳＧＰ－ＶＤ　● ＳＧＰ－ＰＤ　● ＨＩＶＰ　● ＳＵＳ３０４　● ＳＵＳ３１６ ● 水道配水用ポリエチレン管（７５～１００Ａ）　● 水道用ポリエチレン二層管（５０Ａ以下） （エ）特記なき給水管の最小口径は20Aとする。 （オ）ビニル管の接合方法　※ 接着接合　● ゴム輪接合（直管以外の継手部には離脱防止金具取付とする。） （カ）ポリエチレン管の接合方法　50A以下　※ 金属製継手　●融着継手　75A以上　※ 融着継手
3	弁類	※ ロ径６５Ａ以上の仕切弁及び逆止弁は、ライニング弁とする。 ● ５Ｋ（受水槽以降の配管に使用）　● １０Ｋ（公営水道に直結する配管に使用） ● 公営水道事業者指定の止水栓又は弁（給水引込部に使用）
4	水槽のマンホール	屋外に設置する水槽のマンホール蓋は保温形（二重蓋含む）とする。

8 排水設備

1	配管材料	（ア）屋内汚水管　◉ ＶＰ　● ＲＦ－ＶＰ　● 排水用塩ビライニング鋼管　● 耐火二層管 （イ）屋内雑排水管　● ＶＰ　● ＲＦ－ＶＰ　● ＳＧＰ（白）　● 排水用塩ビライニング鋼管 ● 耐火二層管 （ウ）ポンプ排水管　● ＶＰ（水道用）　● ＨＩＶＰ　● 排水用塩ビライニング鋼管（圧送排水鋼管用継手） （エ）通気管　● ＶＰ　● ＲＦ－ＶＰ　● ＳＧＰ（白）　● 排水用塩ビライニング鋼管 （オ）屋外排水管　● ＶＰ　● ＲＦ－ＶＰ　● ＶＵ（地中）　● ＲＥＰ－ＶＵ（地中） ● ＲＳ－ＶＵ　● 卵形管　● コンクリート管
2	満水試験継手	３階以上にわたる排水管立て管に満水試験継手を　※ 取付ける　● 取付けない
3	パイプシャフト内配管の保温	※ 施工する　● 施工しない
4	煙試験	※ 行わなくてもよい　● 図示の系統のみ行う

9 給湯設備

1	配管材料	● ＳＧＰ－ＨＶＡ　● ステンレス鋼管　● 架橋ポリエチレン管 ● 保温付被覆鋼管　● 銅管 湯沸器、給湯機廻りの付属配管等は製造業者標準品とする。
2	弁類	※ ５Ｋ　● １０Ｋ

10 消火設備

1	配管材料	（ア）一般配管　● ＳＧＰ（白）　● ＳＴＰＧ （イ）土間下配管　● ＳＧＰ－ＶＳ　● ＳＴＰＧ－ＶＳ （ウ）地中配管　● ＳＧＰ－ＶＳ　● ＳＴＰＧ－ＶＳ
2	弁類	※ １０Ｋ　● １６Ｋ
3	保温	（ア）呼水タンク　※ 施工しない　● 施工する （イ）充水タンク　※ 施工しない　● 施工する （ウ）配管の保温は次による。（屋外露出箇所は種別ｅ２・（ウ）・Ⅶによる　●施工しない ）
4	屋内消火栓	● 屋内消火栓用（ ※ 施工しない　●施工する ）　● スプリンクラー用（ ※ 施工しない　●施工する ） ● 連結送水用　（ ※ 施工しない　●施工する ）　● 連結散水用　（ ※ 施工しない　●施工する ）
5	ガス系消火剤の種類	● 窒素　● ＩＧ－５４１　● ＩＧ－５５　● ＨＦＣ－２２７ｅａ　● ＨＦＣ－２３
6	ガス系消火の起動方式	※ 手動　● 自動手動切替式

11 ガス設備

1	都市ガス設備	都市ガスはガス供給事業者の供給約款による。
2	配管材料	（ア）一般配管　※ ＳＧＰ（白）　● 合成樹脂被覆鋼管 （イ）土間下配管　※ 合成樹脂被覆鋼管 （ウ）地中配管　※ 合成樹脂被覆鋼管　● ガス用ポリエチレン管
3	ガスメータ	● 親メーター　※ 借用　● 買取　（取付け　※ 別途　● 本工事 ） ● 子メーター　※ 買取　● 借用　（取付け　※ 本工事　● 別途 ）
4	バルク貯槽	● 縦型　● 横型　● 借用　● 買取
5	容器廻りの配管	● 標準図（施工７４）の　● 要領（ａ）　● 要領（ｂ）　● 要領（ｃ）
6	容器転倒防止	● 標準図（施工７５）の　● 要領（ａ）　● 要領（ｂ）
7	ガス漏れ警報器	● 不要　● 要（ ※ 別途工事　● 本工事 ）

12 浄化槽設備

1	処理種別及び方式	● 小規模合併処理（ ● 分離接触ばっ気方式　● 嫌気ろ床接触ばっ気方式　● 脱窒ろ床接触ばっ気方式 ● その他性能評価を受けた方式（　　） ● 合併処理　（ ● 接触ばっ気方式　● 長時間ばっ気方式　● 回転板接触方式 ）
2	型式	● ユニット型　● 現場施工型
3	処理能力	● 処理対象人員　人　● 処理水量　ｍ３／ｄ
4	放流水の水質	● 流入ＢＯＤ　２００ｍｇ／Ｌ　● 放流水質ＢＯＤ　２０ｍｇ／Ｌ以下 ● Ｔ－Ｎ　ｍｇ／Ｌ以下　● Ｔ－Ｐ　ｍｇ／Ｌ以下
5	排水方式	※ 自然流下　● ポンプ排水
6	埋戻し土	● 砂　● 根切土の中の良質土
7	土留め工事	● 不要　● 要（図示による）
8	マンホールふた	※ 製造者標準仕様（ロック式）　● ＭＨＡ型（ボルト式）
9	消毒薬	３ヶ月相当分を納入する。

鳥取県
令和８年度
J2600246
東部建築住宅事務所

令和8年4月改定版

県立鳥取商業高等学校大体育館トイレ洋式化改修工事

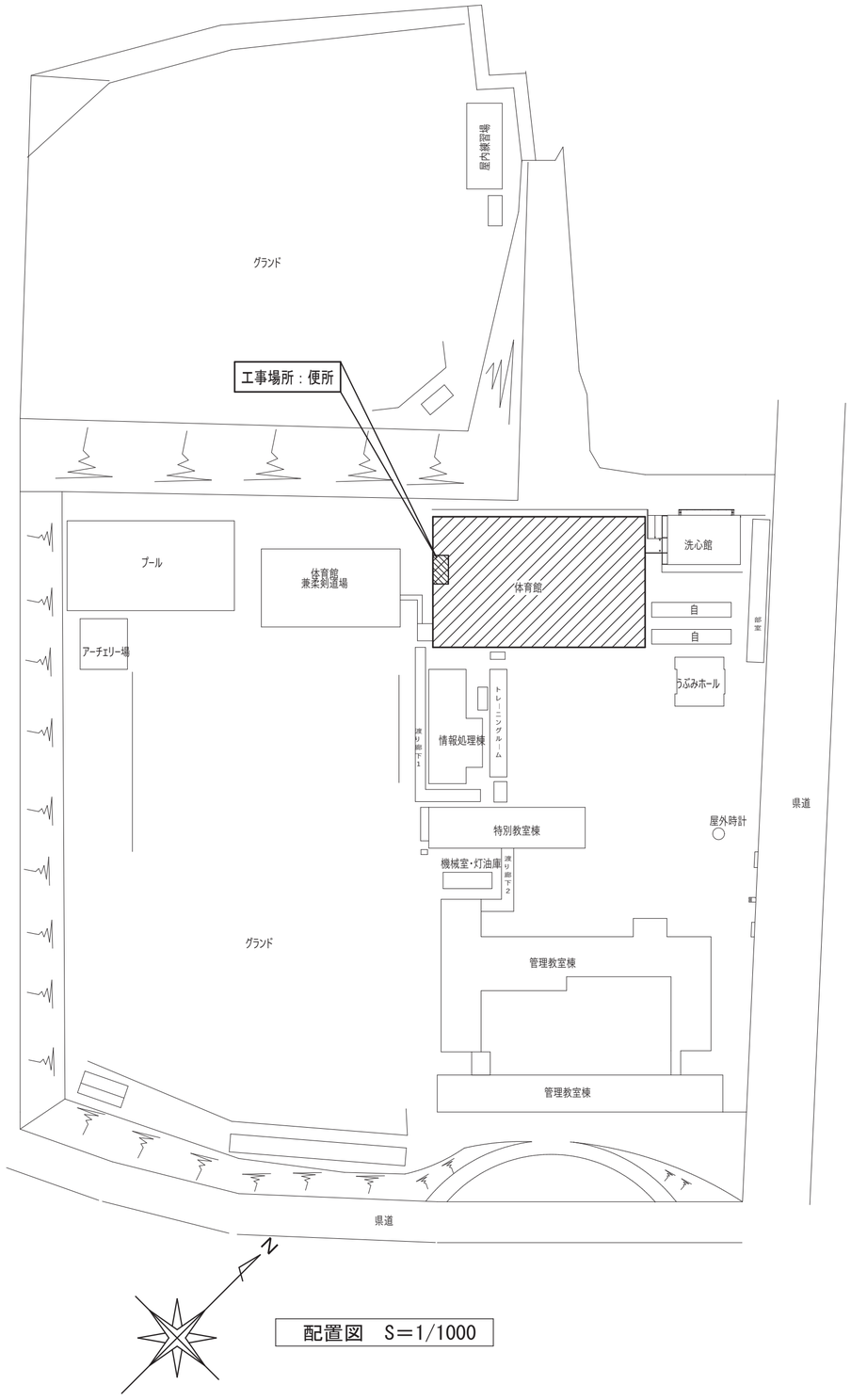
機械設備工事特記仕様書（２）

株式会社 樟設備設計事務所
〒６８０－００５２　鳥取市鹿治町１４
二級建築士登録番号　第２８１０号　谷本　正敏

CHECKED. BY	DRAWING. BY	PROJECT. NO	DATE	SCALE	DRAWING. NO
谷本　吉田	西川	26－03	2026．08		M －03



付近見取図



配置図　S＝1/1000

工事概要
体育館棟　１階女子男子内便所Ｃの洋式化工事
・既設和風大便器撤去、腰掛便器新設
・上記に伴う、給排水工事
・新設腰掛便器箇所にコンセント増設、配線工事
・新設腰掛便器に伴うトイレブース他工事

鳥取県
令和８年度
J2600246
東部建築住宅事務所

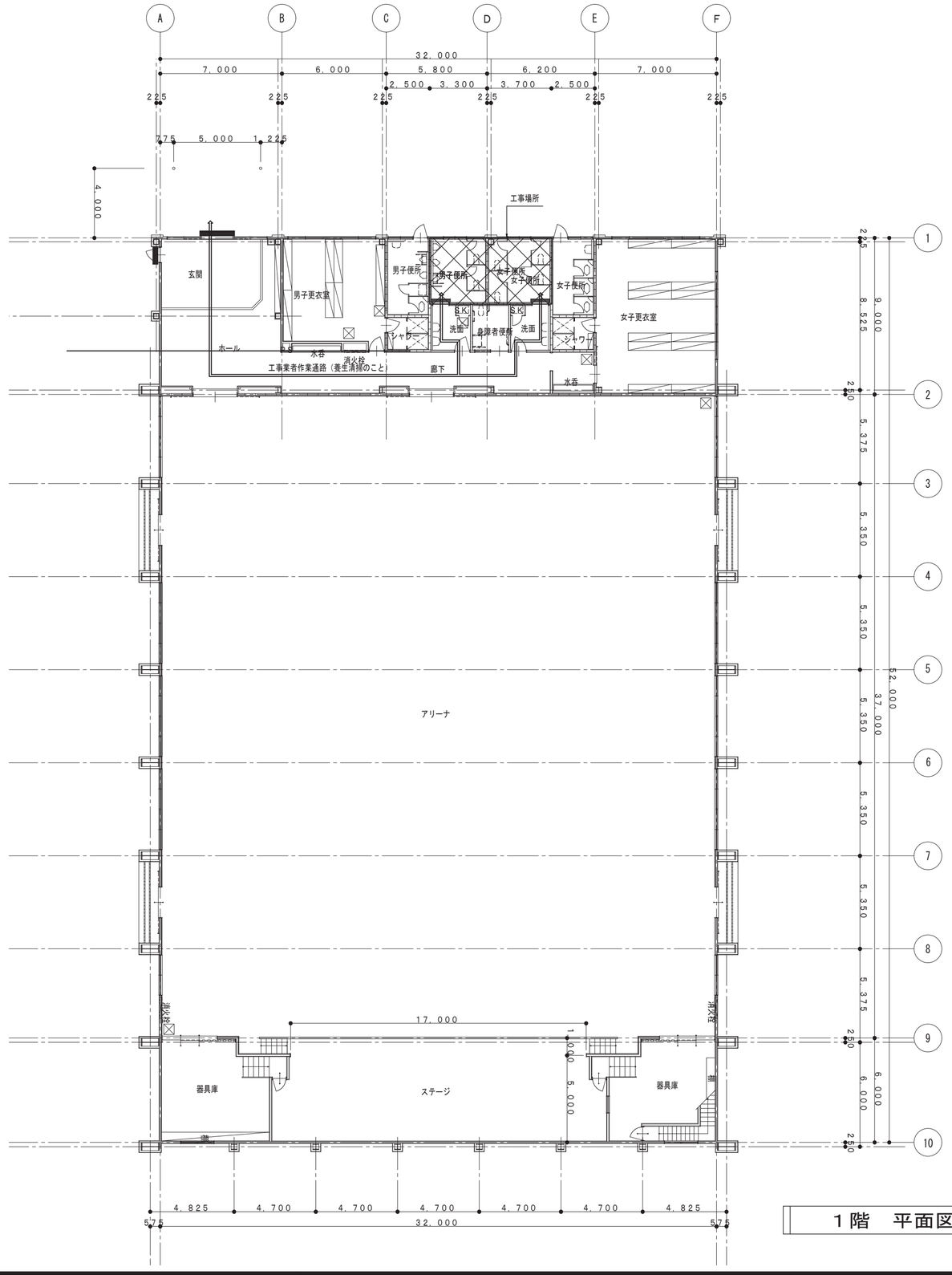
県立鳥取商業高等学校大体育館トイレ洋式化改修工事

付近見取図、配置図、工事概要

株式会社 樟設備設計事務所

〒680－0052　鳥取市鍛冶町１４
二級建築士登録番号　第２８１０号　谷本　正敏

CHECKED. BY		DRAWING. BY		PROJECT. NO	DATE	SCALE	DRAWING. NO
谷本	吉田		西川	26－03	2026. 08	S＝1／1000	M －04



1階　平面図　S=1/200

鳥取県
令和８年度
J2600246
東部建築住宅事務所

県立鳥取商業高等学校大体育館トイレ洋式化改修工事

1階　平面図

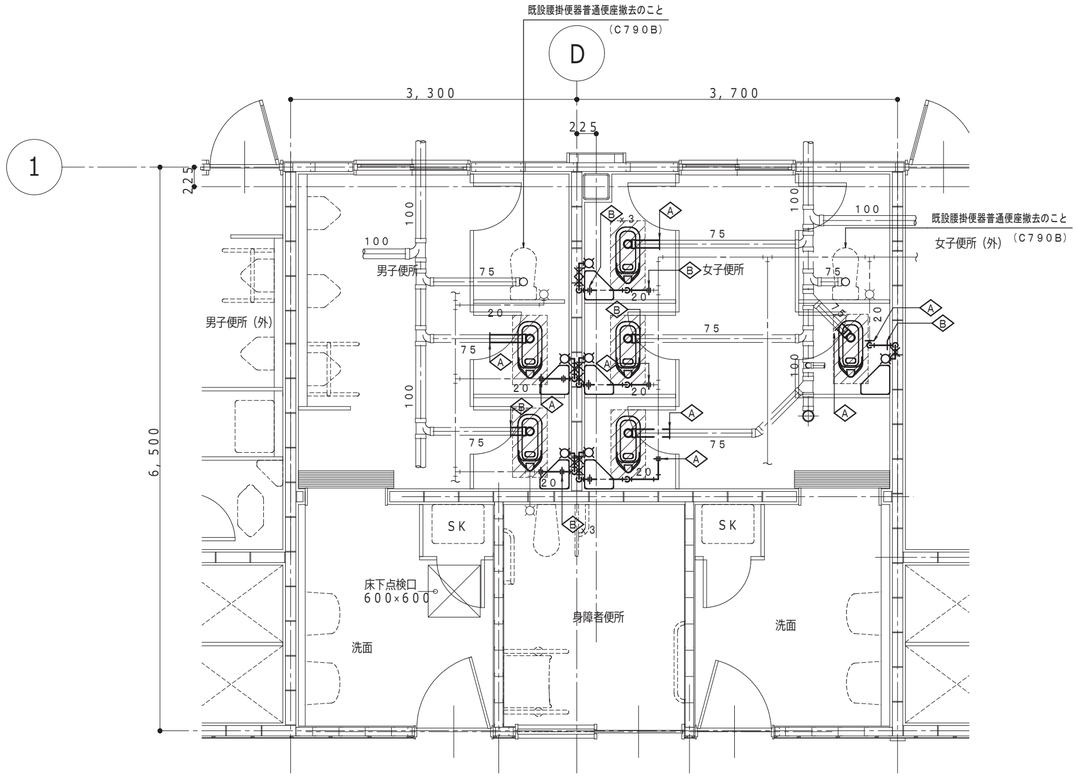
株式会社 樟設備設計事務所
〒680−0052　鳥取市鹿冶町１４
二級建築士登録番号　第２８１０号　谷本　正敏

CHECKED. BY		DRAWING. BY		PROJECT. NO	DATE	SCALE	DRAWING. NO
谷本	吉田		西川	26−03	2026. 08	S=1／200	M −05

撤　去　図

特記事項
1．既設コンクリート壁内の配管は、残置とする
2．上記1ピット内配管切断し、残置配管側にキャップ止めとする
3．1階土間スラブ壊し復旧は建築工事とする
4．止水栓撤去跡は化粧ﾌﾟﾗｸﾞ取付けとする
5．管材質（参考）
給水管～ＳＧＰ－ＶＢ
汚水管～ＶＰ

凡例（撤去図）	
	撤去給水配管
	撤去汚水配管
	既設再使用給水配管
	既設再使用汚水配管
	既設不要配管（残置配管）
A	既設再使用配管と撤去配管との切離し箇所 （改修後接続箇所を示す）
B	既設不要管キャップ止め
	土間スラブ壊し復旧範囲（建築工事）



便所　配管図　S=1/50

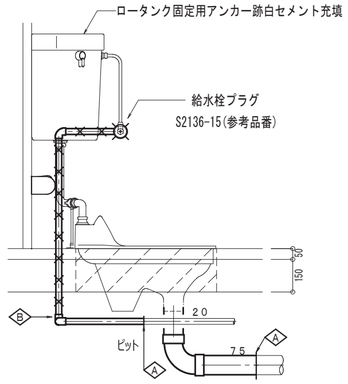
撤去衛生器具

和風便器	
C755V, S570B, 紙巻器, 他一式	6
擬音装置（取外し再使用有3個、撤去処分1個）	
（女子便所）	

※紙巻器等の取り外したビス穴はコーキング等で補修を行う

撤去換気扇

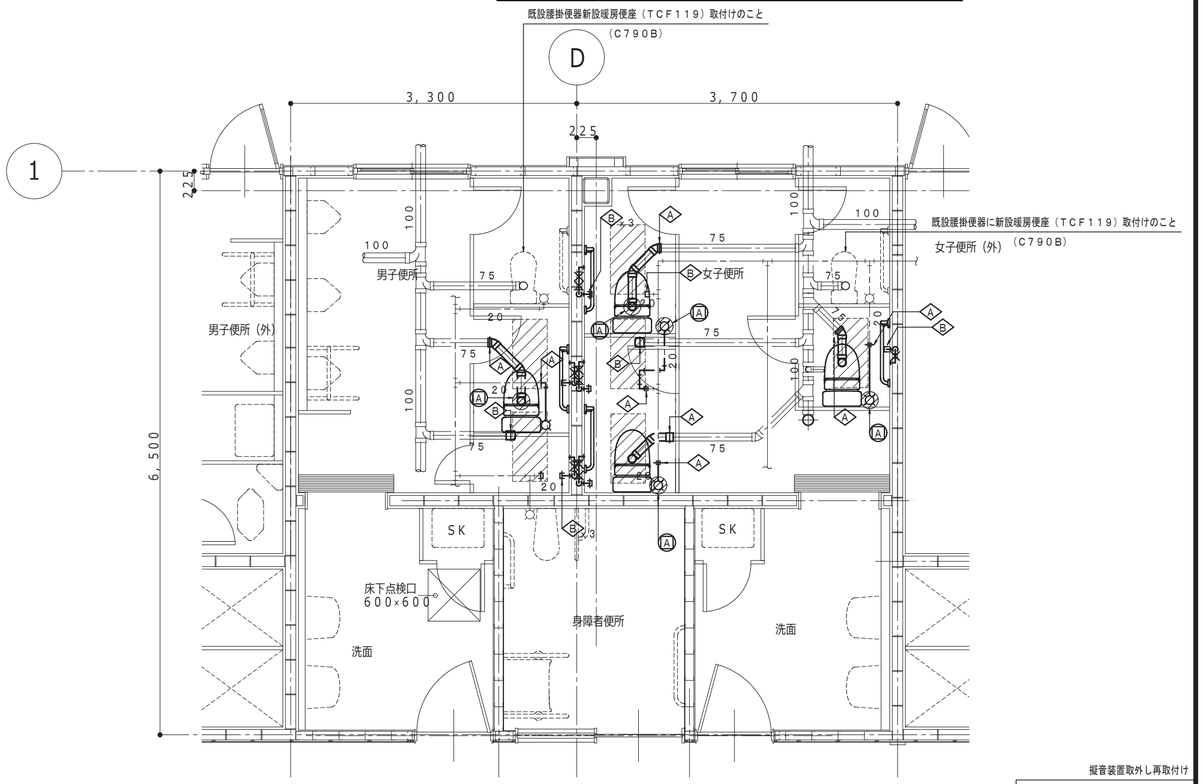
男子便所　(VD-23ZX4-C) φ150x350m3/hx70Pax65W 1-100V	1
女子便所　(VD-18ZB5) φ150x200m3/hx50Pax28W 1-100V	2



便器周り　参考配管図　S=1/20

改　修　図

凡例（改修図）	
	改修給水配管
	改修汚水配管
	既設再使用給水配管
	既設再使用汚水配管
	既設不要配管（残置配管）
A	既設再使用配管と改修配管との接続箇所
B	既設不要管キャップ止め
	土間スラブ壊し復旧範囲（建築工事）
	既設スラブ開口復旧（ダイヤモンドコア抜き）
A	鉄筋探査共



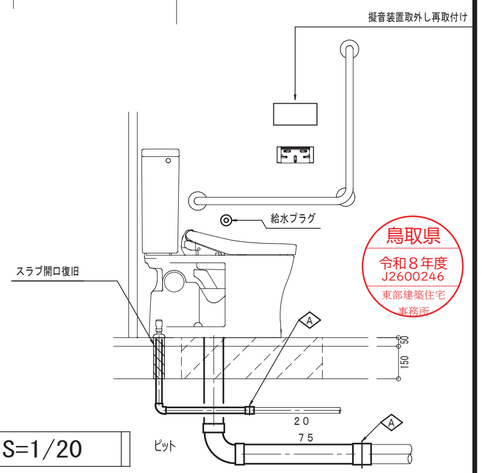
便所　配管図　S=1/50

新設衛生器具　※紙巻器取付けは県福祉のまちづくり施設整備マニュアルを参考にすること

腰掛便器	
CS597BMCS,（排水芯可変）, SH596BAR（床給水）	4
TCF116（暖房便座）, 他一式	
YH51R（樹脂製、ﾜﾝﾊﾝﾄﾞｶｯﾄ紙巻き器）	
擬音装置（再取付・女子便所のみ3個）	
L型手すり（前出90mm）	
T112CL9, プラグ固定	4

新設換気扇

男子便所　(VD-23ZX14-C)～参考品番 φ150x350m3/hx70Pax59W 1-100V、天吊り金具共	1
女子便所　(VD-18ZB14)～参考品番 φ150x200m3/hx50Pax29.5W 1-100V、天吊り金具共	2



鳥取県
令和８年度
J2600246
東部建築住宅
事務所

便器周り　参考配管図　S=1/20

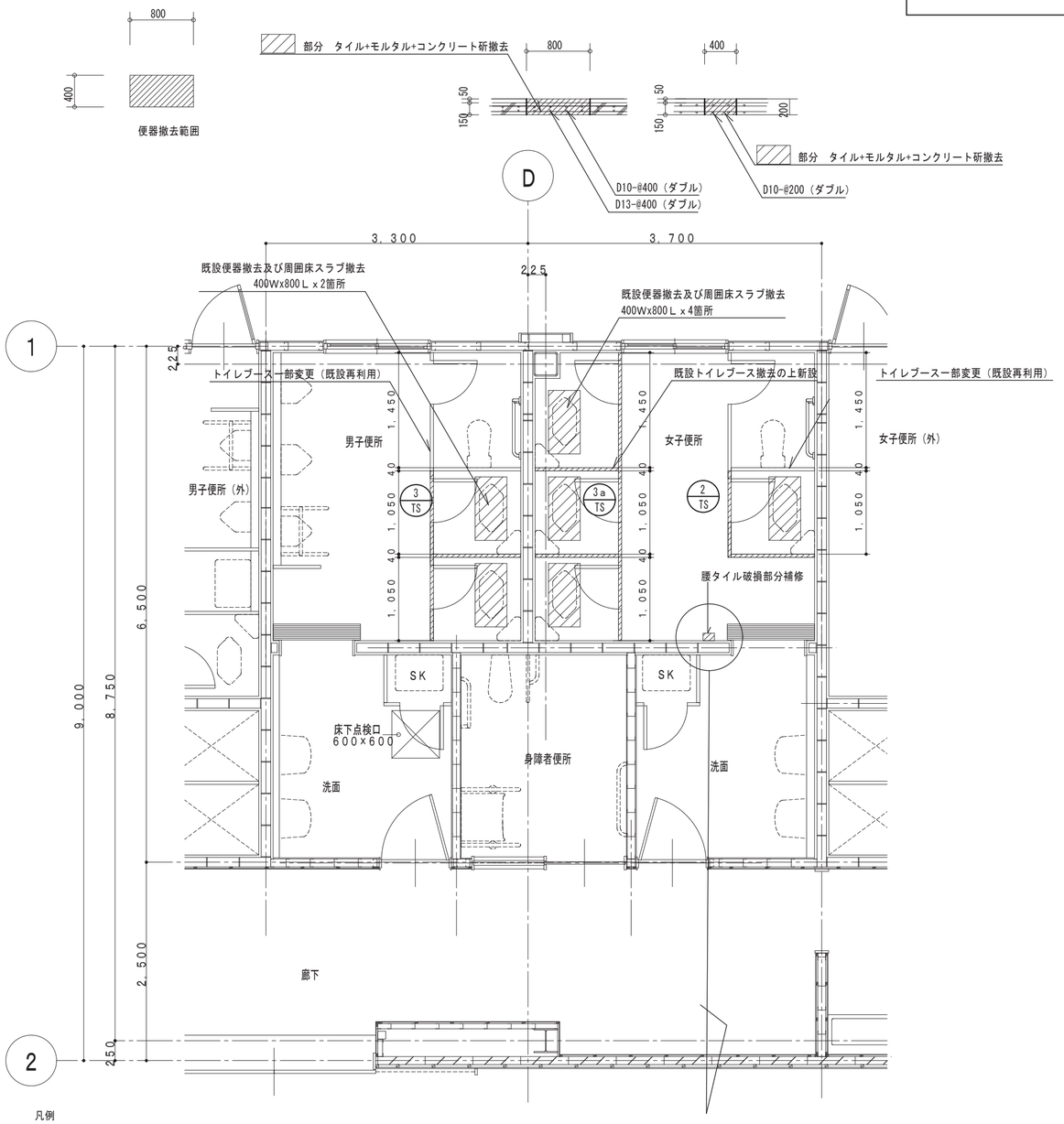
県立鳥取商業高等学校大体育館トイレ洋式化改修工事

機械設備　　便所　配管図　　（撤去図・改修図）

株式会社 樟設備設計事務所
〒680－0052　鳥取市鍛冶町14
二級建築士登録番号　第2810号　谷本　正敏

CHECKED. BY		DRAWING. BY		PROJECT. NO	DATE	SCALE	DRAWING. NO
谷本	吉田		西川	26－03	2026．08	S＝1／50	M －06

撤去図



凡例

斜線部分トイレブース　既設ブース撤去の上改修

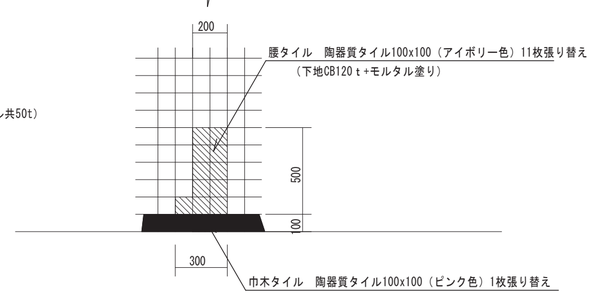
上記以外部分トイレブース　既設のまま

既設陶器（便器及びロータンク）撤去

床スラブ　便器及び周囲斫撤去（400Wx800L）の上復旧

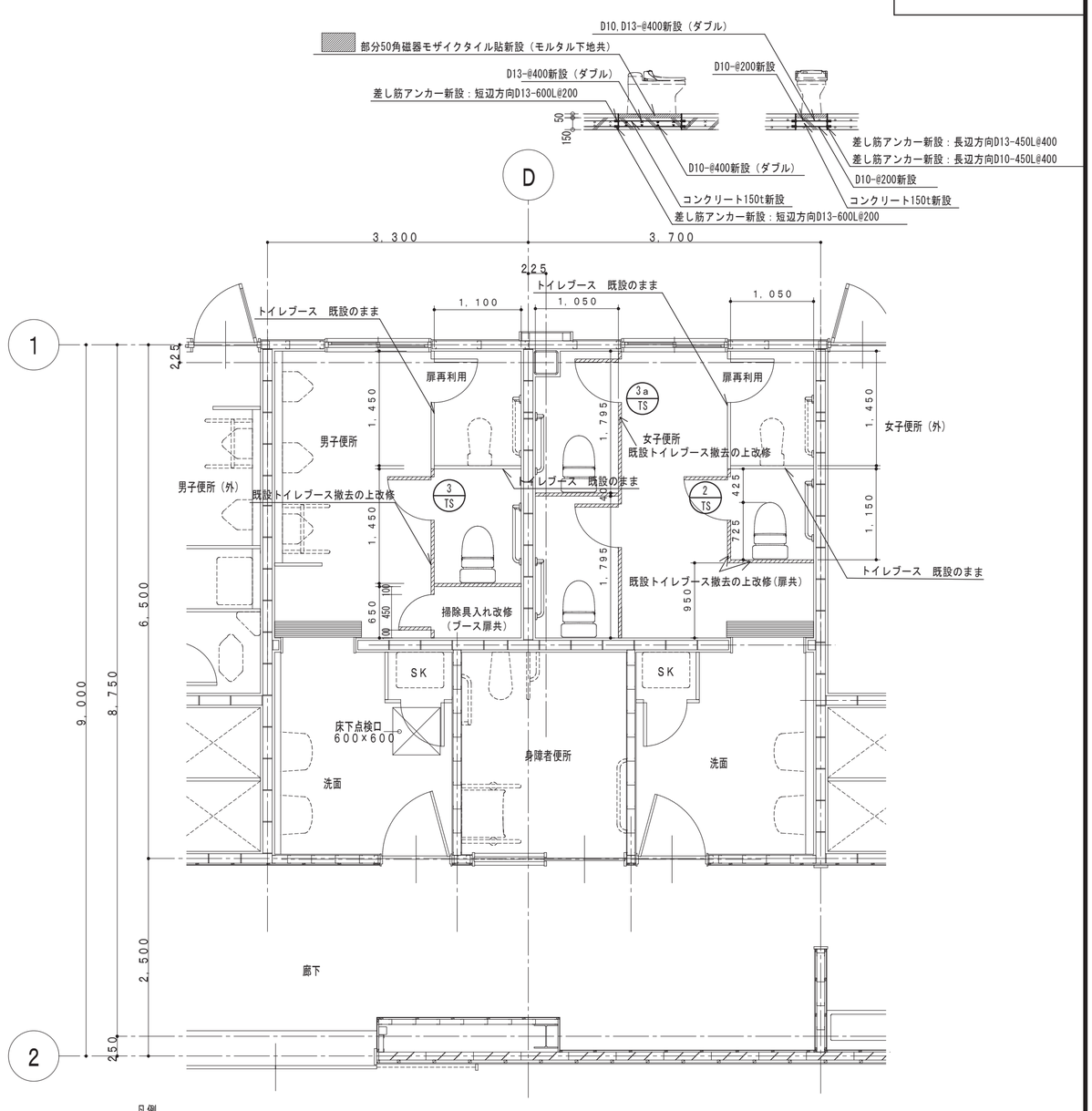
コンクリートスラブ150t　モルタル及び50角磁器タイル（塗厚タイル、モルタル共50t）

１階　便所　平面図　S=1/50



腰タイル舗装部分補修　1/25

改修図



凡例

斜線部分トイレブース　既設ブース撤去の上改修（材質は既存と同様とする）

上記以外部分トイレブース　既設のまま

壁タイル破損部分普及は100角陶器質タイル15枚分撤去及び撤去跡下地清掃の上タイル復旧とする。

タイル色は巾木部分1段ピンク3枚　上部壁はベージュ色12枚とする

１階　便所　平面図　S=1/50

鳥取県
令和８年度
J2600246
東部建築住宅事務所

県立鳥取商業高等学校大体育館トイレ洋式化改修工事

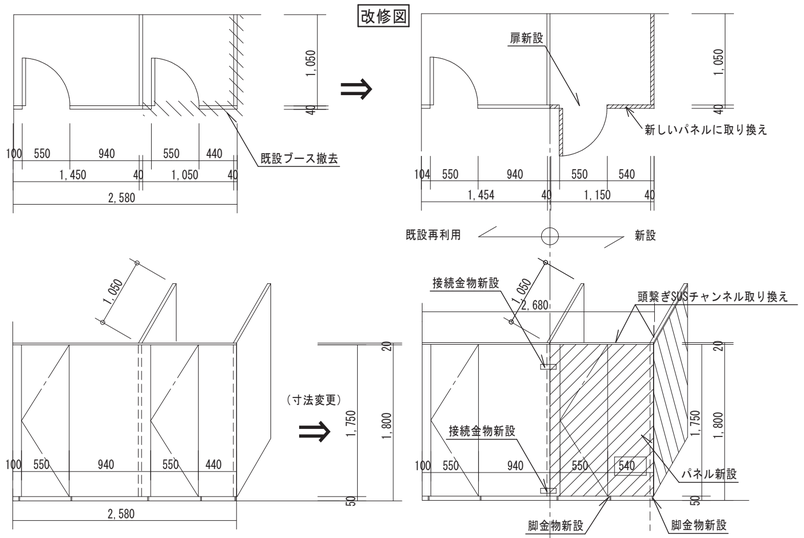
建築工事　１階　便所　平面図　（撤去図・改修図）

株式会社 樟設備設計事務所
〒680−0052　鳥取市鍛冶町１４
二級建築士登録番号　第２８１０号　谷本　正敏

CHECKED. BY		DRAWING. BY		PROJECT. NO	DATE	SCALE	DRAWING. NO
谷本	吉田		西川	26−03	2026. 08	S=1／50	M −07

2 TS　既設ブースー部撤去の上新設

撤去図



改修図

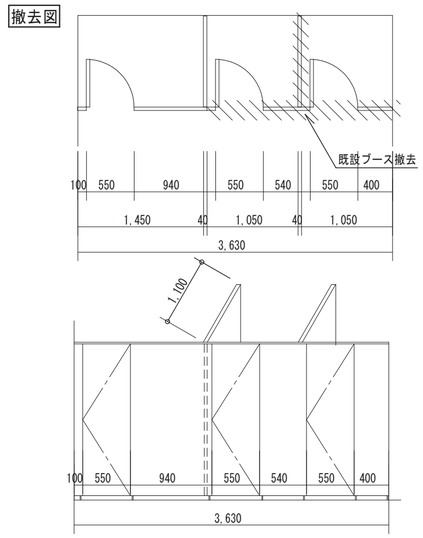
（寸法変更）

※斜線部分は撤去改修部分を示す

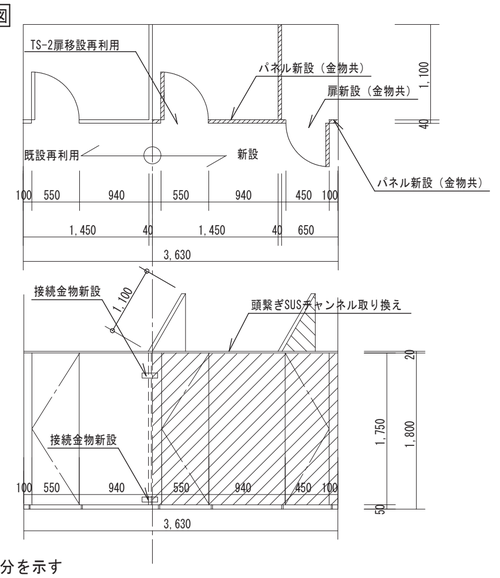
材質・仕上	メラミン両面フラッシュ（ペーパーコア充填）
見　込	40
金　物	SUS製頭繋金物　グレビティーヒンジ　戸当金物（その他は既設品再利用）
備　考	▨ 表示パネルを新設とする

3 TS　既設ブースー部改修の上再利用

撤去図



改修図

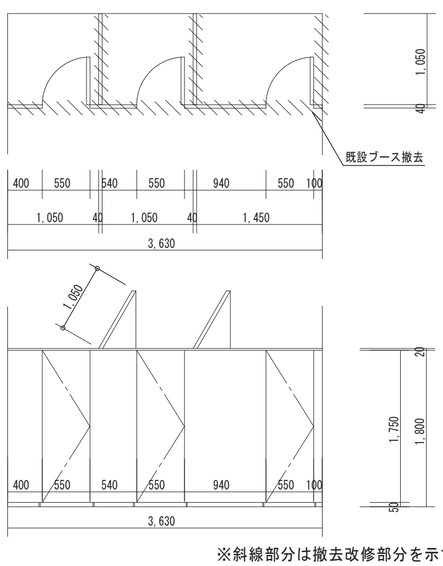


※斜線部分は撤去改修部分を示す

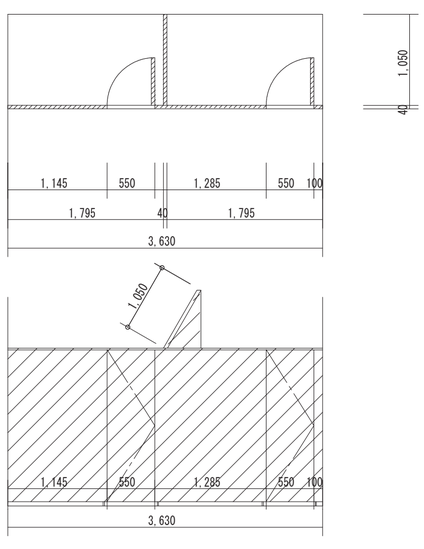
材質・仕上	メラミン両面フラッシュ（ペーパーコア充填）
見　込	40
金　物	SUS製頭繋金物　グレビティーヒンジ　帽子掛戸当金物（その他は既設品再利用）
備　考	▨ 表示パネルを新設とする

3a TS　既設ブース撤去の上新設

撤去図



改修図



※斜線部分は撤去改修部分を示す

材質・仕上	メラミン両面フラッシュ（ペーパーコア充填）
見　込	40
金　物	SUS製頭繋金物　グレビティーヒンジ　帽子掛戸当金物　脚金物　壁取付アングル　スライド錠
備　考	▨ 表示パネルを新設とする

鳥取県
令和８年度
J2600246
東部建築住宅事務所

県立鳥取商業高等学校大体育館トイレ洋式化改修工事

建築工事　　便所　トイレブース改修図（撤去図・改修図）

株式会社 樟設備設計事務所
〒680−0052　鳥取市鍛冶町１４
二級建築士登録番号　第２８１０号　谷本　正敏

CHECKED. BY		DRAWING. BY		PROJECT. NO	DATE	SCALE	DRAWING. NO
谷本	吉田		西川	26−03	2026. 08	S=1／50	M −08

電灯動力盤 参考結線図

（通　路）

= LM-1 =

【商用電源】
1φ3W100/200V
EM-CET100sq

EM-CET38sq　= L-2 = へ

MCCB3P
100/75AT
中性線欠相保護

負荷容量(VA)	負荷名称	ﾘﾓｺﾝ番号	回路番号
			01
	女子更衣室 照　明		101
	廊　下 照　明		103
	管理室 照　明		105
	外　灯		107
	女子更衣室		301
	便　所		303
	管理室		305
	ヨ　ビ →女子便所		307
	ヨ　ビ →男子便所		309

回路番号	ﾘﾓｺﾝ番号	負荷名称	負荷容量(VA)
01		誘導灯	
102		便　所 照　明	
104		ホール 照　明	
106		渡り廊下 照　明	
		ヨ　ビ ※使用中	
302		湯沸器	
304		廊下・ホール	
306		管理室	
308		ヨ　ビ →女子便所	
		ヨ　ビ	

100V　100V

盤内改修内容

●電灯動力盤 =LM-1=

・暖房便座用電源として、ヨビ回路のMCCB2P20A（3回路）を撤去し、ELCB2P30/20Aを取付ける。
・上記作業の際の停電作業調整

● 電 気 設 備 工 事 特 記 仕 様 書

一　般　事　項

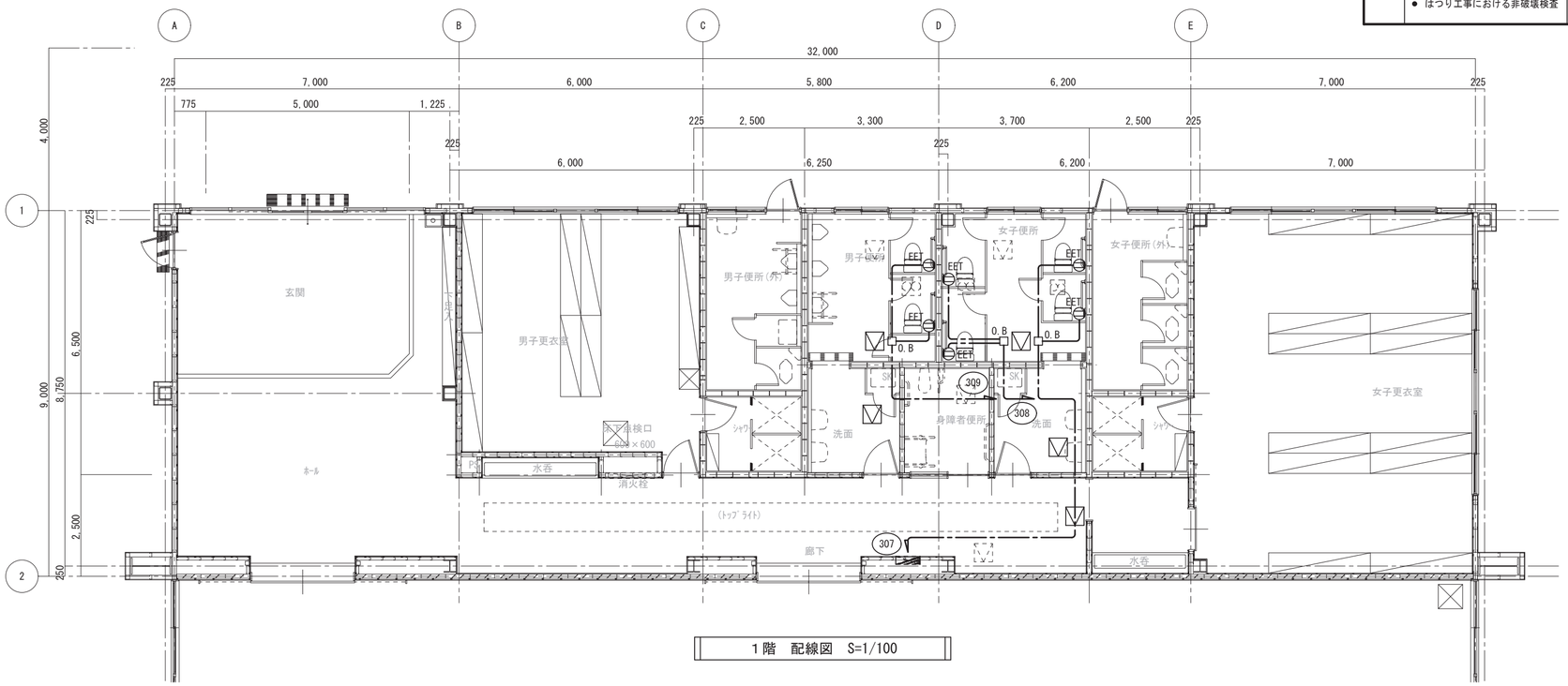
（１）現場説明書、質問回答書、特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の標準仕様等のうち、◉印の付いたものによる。

◉ 公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）（令和７年版）（以下、「標準仕様書」という。）
◉ 公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編）（令和７年版）（以下、「改修標準仕様書」という。）
◉ 公共建築設備工事標準図（電気設備工事編）（令和７年版）（以下、「標準図」という。）

（２）国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「電気設備工事監理指針（令和７年版）」（以下「監理指針」という。）を適用する。

（３）機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、機械設備工事及び建築工事はそれぞれの標準仕様書等及び監理指針を適用する。

	項　目	特　記　事　項
一般共通事項	◉ 発生材の分析及び処理	引渡しを要するもの　※ 無し　● 有り（　　） 引渡しを要するもの以外は、構外搬出適切処理とする。 特別管理産業廃棄物　※ 無し　● 有り　●本工事において調査を行う （ ● ＰＣＢ使用機器　● アスベスト含有設備資機材（ ●　　● ）） ＰＣＢ使用機器は関係法令等に従い適切に処理する。 撤去予定機器の微量ＰＣＢ分析　※ 無し　● 有り
	◉ 機材等	本工事に使用する設備機材等は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等以上の品質及び性能を有するものとする。また、製造者等が定められている機材については、Ⅲ．機材によるほかこれらと同等以上のものとする。ただし、これらと同等以上のものとする場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料をあらかじめ監督職員に提出して承諾を受ける。 なお、（一社）公共建築協会発行の「建築材料・設備機材等品質性能評価事業　設備機材等評価名簿」による場合は評価書の写しを監督職員に提出するものとする。
	◉ 機材の品質・性能証明	使用する機材がⅢ.機材による場合は、標準仕様書第１編第１章第４節１．４．２(2)の品質及び性能を有することの証明となる資料の提出を省略することができる。ただし、標準仕様書に規定される製作図、試験成績書等は除く。
	◉ 電線類	本工事では環境配慮の観点から、原則としてＥＭケーブルを使用するものとする。 ＥＭ電線類で規格等の定めのないものはハロゲン及び鉛を含まない材料で構成されたものとする。 通信ケーブルでＪＣＳ規格にない対数のケーブルはＪＣＳ規格に準じたものとする。 盤内配線はＥＭ電線を使用する。ただし、製造者標準品と特記したものは除く。 ハーネスジョイントボックス用ＯＡタップのケーブルはハロゲン及び鉛を含まない材料とする。
	◉ 電線本数・管路等	分電盤、制御盤、端子盤などの２次側以降の配線経路、電線太さ、電線本数、管径などは監督職員の承諾を受けて変更してもさしつかえない。
	◉ フラッシュプレートの材質	◉ 金属製（ステンレス、新金属も含む）　● 樹脂製
	◉ カバープレートの表示	シール等を貼付し、用途を表示する。
	◉ 補修など	工事の施工に伴い既存部分を汚染又は損傷した場合は、既成にならい補修する。
	● はつり	既存のコンクリート床、壁などの配管貫通部の穴あけは、原則としてダイヤモンドカッターによる。
	● はつり工事における非破壊検査	探査方法　※電磁誘導式　● 放射線透過検査　●



1階　配線図　S=1/100

注　記

１．図中、指示なき配管配線は下記による。
----- EM-EEF 2.0-3C（1CT-ｽ）　天井内
２．ｺﾝｾﾝﾄへの壁立下部は、1種金属線ぴ(MM1-A)にて保護のこと。
３．分電盤回路には、行き先表示を併記すること。
４．図中、指示なきｼﾝﾎﾞﾙは凡例または標準図による。

凡　例

記　号	名　称	摘　要
	電灯動力盤	※分電盤結線図参照
0.B	ｼﾞｮｲﾝﾄﾎﾞｯｸｽ	中四角 D44
EET	埋込ｺﾝｾﾝﾄ	2P15AE×1,ET
	天井点検口	□450 ～新設：5個
	天井扉	※更新に伴う結線引外し再接続を見込む。

鳥取県
令和８年度
J2600246
東部建築住宅事務所

県立鳥取商業高等学校大体育館トイレ洋式化改修工事

電気設備　　１階　配線図、特記仕様書、分電盤　結線図

株式会社 樟設備設計事務所
〒６８０－００５２　鳥取市鍛冶町１４
二級建築士登録番号　第２８１０号　谷本　正敏

CHECKED. BY		DRAWING. BY		PROJECT. NO	DATE	SCALE	DRAWING. NO
谷本	吉田		村上	26-02	2026. 08	S=1／100	E -01